

生存科学研究ニュース

VOL. 16. NO.4 2001. 7. 10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3563-3518 FAX 03-3567-3608
Eメール seizon@mx1.alpha-web.ne.jp

中尾喜久先生のご逝去を悼む



学士院会員であり、
本研究所の副理事長・
理事長代行としてご尽
力いただいた中尾喜久
先生が去る6月20日心
筋梗塞のため逝去され

ました。享年89才。

中尾先生は自治医科大学の創設に尽力され
初代学長に就任、以来24年間、自治医科大学
の学長を勤められ、地域医療に多大な貢献を
されました。又、生存科学研究所においては
平成3年6月理事となり、その後、故熊谷理
事長の跡を継ぎ、副理事長として理事長代行
を平成8年5月まで勤められ、多大なご尽力
を頂きました。

ここに、慎んで心よりご冥福をお祈りいた
します。

平成13年度第2回理事会 第1回評議員会報告

平成13年5月28日（月）、アルカディア市
ヶ谷（私学会館）会議室において標記会議が
開催された。

理事は13名のうち出席者13名（委任状によ
るものを含む）、評議員は19名のうち出席者
17名（委任状によるものを含む）で各会は有
効に成立した。

理事会の議長には江見康一理事長が、評議
員会の議長には向山定孝評議員が選出され、
審議が行われた。

主な議題は

- (1) 平成12年度事業報告について
- (2) 平成12年度収支決算について
- (3) 平成13年度執行部体制について
- (4) その他について

であった。

審議の結果、下記の通りとなった。
議事の経緯及び結果

- (1) 平成12年度事業報告について

江見理事長より資料に基づき、各会議、各事業の活動経過について説明がなされ、事業責任者が出席している場合は各責任者から追加説明が行われた。受託事業は日本原子力発電株式会社、および国立環境研究所からの委託を受けて行われたこと、共同研究は日本川崎病研究センター、レオンチェフ文庫プロジェクトが昨年引き続き行われたことが報告された。また運営については、①経済的に厳しい状況であるが工夫努力の結果、運用財産の受け取り利息が増加したこと、②研究会が活発に行われたこと、③広報活動である講座、学術誌発行も順調に行われ、講座では多くの参加者を得、また、学術誌は外部から好意的な評価を得たこと、④さらに研究会の実施に関して、評価委員会が研究会実績について、検討・評価を行っていることが報告された。審議の結果、事業報告は全員一致で承認された。

平成12年度に行った自主研究事業は下記のとおり。

自主研究 A.川崎病研究会

B.生存学研究会

C.21世紀医療システムのあり方研究会

D.21世紀世界の文明と生存の研究会

E.銀座ナイトセミナー「生きる」シリーズ

F.21世紀における生存科学としてのバイオエシックスの構築研究会

G.形態生存医学研究会

H.自主研究中長期基本構想委員会

(2) 平成12年収支決算について

鈴木専務理事より資料を基に収支計算書、

貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、計算書類に対する注記について説明がなされた。審議の結果、平成12年度収支決算書は全員一致で承認された。

(3) 平成13年度執行部体制について

江見理事長より資料に基づき、新役員の紹介が行われた。さらに執行部の役割分担について、三役案が提案され、全員異議なく了承した。

(4) その他について

レオンチェフ文庫について

生存科学研究所が所有権を持つレオンチェフ文庫は、現在、委託契約に基づき中央大学が管理しているが、その期限が本年末であるので、その後の対応については三役及び常務理事に一任することとなった。

平成13年度第1回 21世紀における生存科学としてのバイオエシックスの構築研究会

平成13年6月9日午後6時より生存科学研究所会議室において、標記研究会を開催した。今回は、浜松医科大学医療情報部教授の木村道男氏を迎え、「医療のIT化の明暗」をテーマに、現在急速に進みつつある医療に関わるIT化の近未来の予想とその問題点についてお話しいただき、その後ディスカッションを行った。

木村氏は、喧伝される「IT化された夢の医療」、すなわちICカードの保険証やネットに繋がった電子カルテなどを利用することによる医療の円滑化、効率化に対して、これから起こりうる具体的ケースを挙げ、ITの道具としての意味や情報管理、医療のIT化が生む新

たな差別の問題を指摘された。

以上のような議論を踏まえ、氏は、10年後の医療情報予測として、医療現場における情報端末としては、業務専門端末が普及し、医師にはゲームのコントローラー型のものが主流になり、看護婦にはPHS（医療機器への障害電波の問題は克服される）が活用されるとされた。また、医療情報のネットワークは、個別化・縮小化に向かい、情報の流れが目に見える運用が求められるようになることや、情報公開に関しては「防衛的な医療」が広がるために限界が意識されだすことを指摘された。最後に個人の満足が相対的なものであるならば、差別はなくならないのではないかとの問題意識から、せめて医療のIT化がその原因にならないことを願うばかりであると結ばれた。（大林雅之）

第14回銀座ナイトセミナー「生きる」報告

平成13年6月27日（水）午後6時より、日本介助犬アカデミー専務理事の高柳友子氏を招いて標記セミナー「介助犬と『生きる』」が開かれた。高柳氏は医師で、現在、東京医科歯科大学大学院国際環境寄生虫病学分野の講師でもある。

介助犬は広義には、視覚障害者の歩行誘導をする盲導犬、聴覚障害者に音を知らせる聴導犬、身体機能障害者の四肢の機能代行をする介助犬、など、障害者の介助をする全ての使役犬をさす。しかし一般的には、視覚や聴覚以外の身体機能代行、すなわち車椅子を引く、物を拾って渡す、ドアを開ける、物を運

ぶ、など、主に肢体不自由者の日常動作を介助するよう訓練された犬のことを介助犬と呼んでいる。こうした動作補助は介助「者」によってももちろん可能だが、障害者が躊躇することなく（誰かに負担をかけていると感じることなく）いつでも補助を依頼できるという点では介助犬に軍配が上がる。すなわち、障害者の精神心理面を含んだQOLの改善に大きく役立ち、彼らが「生きる」ことをサポートする。

しかし、介助犬を取り巻く現状はまだまだ厳しい。現在実際に障害者の介助をしている介助犬は日本全国でわずか19頭（盲導犬は873頭）にとどまり、登録制度・育成制度も全く整備されていない。介助犬・介助犬訓練士に国家資格が存在しないため、衛生面や介助犬・育成団体の質の面での保障がなされておらず、介助犬の使用が逆に社会的ハンディになることすらある。このような状況を改善して介助犬の安全性、有効性、有用性を確保していくためには、介助犬や訓練士も医療チームの一員であることを前提とした社会システムの整備が不可欠である。

ビデオ上映を含めた講演後、「慈善事業にするか通常の受益者負担にするか」、「保険給付の可能性」、「ある程度経験のある理学療法士・作業療法士を介助犬訓練士として養成できないか」、「獣医師はどのように関与すべきか」、「ステレオタイプ化したマスコミ報道」など活発な議論が展開された。（津谷喜一郎・五十嵐 中）

「武見賞」推薦・応募のご案内

公益信託武見記念生存科学研究基金では、平成13年度の「武見記念賞」受賞候補者の推薦、「生存科学研究武見奨励賞」への応募を下記の要領でお願いしています。

1. 趣旨

故武見太郎先生が創造した生存科学の普及・発展を計ることを目的に、生存科学とその関連分野で顕著な業績をあげた方、あるいは現にあげつつある研究者または実践者を顕彰してその業績を称える。

2. 賞の種類

(1) 「武見記念賞」

生存科学とその関連分野で、顕著な業績をあげた研究者または実践者を顕彰する賞。受賞者は概ね60歳以上とする。

(2) 「生存科学研究武見奨励賞」

生存科学とその関連分野で、創造的な研究や実践的な活動を行い業績をあげつつある方を顕彰する賞。

3. 受賞候補者の推薦・応募

前記(1)の賞を受けるに相応しい方を、所定の「推薦書」用紙に所要事項を記載して、また、(2)の賞に応募を希望する方は、所定の「申請書」用紙に所要事項を記載して、下記連絡先宛て提出してください。なお、外国人のご推薦・応募はご遠慮願います。

4. 受賞者数・賞金等

「武見記念賞」又は「生存科学研究武見奨励賞」のいずれかについて1名。賞金は一人50万円。副賞として記念品を贈呈。

5. 募集期限

8月31日(金曜日)まで

6. 選考方法

当基金運営委員会で審査し選考する。

7. 選考結果の通知

10月末日までに、受賞候補者・推薦者並びに申請者に直接通知する。

▼ 連絡先 中央三井信託銀行株式会社

日本橋営業第一部公益信託課

〒103-8323 東京都中央区日本橋室町2-1-1

☎03-3277-7490 (担当：^{しま}隋)

寄贈図書

天狗はうたう-後白河院の癒しの生涯

藤原成一 著

2001年3月発行

発行所 法蔵館

定価 2000円+税



生きてゆく上で、
人間にはどれだけの
「癒し」が必要か？

源平争乱の動乱期、

後白河院は、力を揮う者がつぎつぎと滅びてゆくのを見やりながら、無常の世を生ききった。その秘訣は？ 天狗のような「無形の位」こそ人生の構えだった。(本書、帯より)

研究所日報

5月28日(月) 第2回理事会

5月28日(月) 第1回評議員会

6月9日(土) 第1回生存科学としてのバイオエシックスの構築研究会

6月26日(火) 第1回編集小委員会

6月27日(水) 第14回銀座ナイトセミナー

7月7日(土) 第2回生存科学としてのバイオエシックスの構築研究会

7月10日(火) 3役会